日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部

発行人：阿波谷敏英,大原昌樹
事務局　〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛
Tel. 087-876-1185　Fax. 087-876-3795
E-mail　oharamasaki@gmail.com

★　新専攻医オリエンテーション・ポートフォリオ発表会の案内

プログラム責任者協議会四国ブロック支部代表
愛媛生協病院：原　穂高

2024 年度も四国ブロック支部に新たな専攻医を迎えます。

こちらで四国ブロック家庭医療/総合診療専門研修 専攻医オリエンテーション・ポートフォリオ発表会のお知らせをいたします。

今年は徳島で、4 月 20 日(土)に現地+オンライン形式で行います。新専攻医のみなさん、すでに研修を始めている先輩専攻医のみなさんにはぜひ現地に参加頂き、直接交流していただきたいと思います。研修に関わる先生方の参加をお待ちしています。もちろんオンライン参加もウェルカムです。

【申し込み】

4 月 13 日までに下記申込フォームもしくは右の QR コードより申込ください。

https://forms.gle/XbBU6gXoj5cEZmP56

【概要】

開催日時	：	2024 年 4 月 20 日(土)　13 時受付　13 時半～16 時半
方式	：	現地参加+オンライン(Zoom)
場所	：	徳島大学病院 西病棟 11 階 日亜メディカルホール(徳島市蔵本町 2 丁目 50-1)
会費	：	無料　ただし交通費・駐車場料金(100 円/24 時間)は自己負担
生涯学習単位	：	申請中(OJT、医師)

【内容】

・先輩からの歓迎の言葉、専攻医部会の紹介
・オリエンテーション(専門研修について、研修手帳について)
・メイン講演会　やまと診療所高知 院長 西村真紀先生
・ポートフォリオ発表会・指導
・専攻医自己紹介

【ウェブサイト】

https://sites.google.com/view/shikoku-pc-orientation2024/

【お問い合わせ】

徳島大学病院　総合診療部　大倉佳宏
jonikura@gmail.com
TEL　088-633-9656
(徳島大学総合診療医学分野事務室)

★ 高知家総合診療専門研修プログラム主催　総合診療セミナー＆ワークショップ　「臨床現場で便利な二次資料を使い倒す!タイパ時代の EBM 実践」

高知家総合診療専門研修プログラム事務局
高知大学医学部家庭医療学講座：阿波谷敏英

高知家総合診療専門研修プログラムの主催で標記のセミナー＆ワークショップを開催しました。講師として聖母病院の南郷栄秀先生においでいただきました。南郷先生は、EBMer としてご高名で、全国で講演活動をされています。実は、南郷先生が講演をしていない 3 県のうちの 1 つが高知県でした。お忙しい中、時間をとっていただきご来県いただきました。

DynaMed, UpToDate を実際に操作しながら説明いただきました。ちょっとした Tips なども教えていただき、短時間で有効な情報にたどり着けるよう、まさにタイパ時代にあった実践方法を学ぶことができました。

クリスマスイブである日曜日の午前という参加しづらい日程でしたが、県内外から 26 名の参加がありました。日本プライマリ・ケア連合学会の家庭医療専攻医の Off-the-job training の単位、専門医、認定医、認定薬剤師の更新単位も 12 名の方から申請いただきました。研修医、専攻医、指導医、理学療法士、薬剤師、図書館司書など多くの立場の方に参加いただけたのも準備にあたった者として大変有難かったです。

講演は、ご自身の紹介、利益相反の説明に続いて、総合診療医とくに病院総合医と総合内科医の違い、病床規模別の病院総合医の役割の違いなどを丁寧にご説明いただきました。本題の EBM のお話では、5 つのステップを説明いただきました。PICO による問題の定式化、情報収集という最初の 2 つのステップについてシナリオについてグループワークも交えながら学びました。今回のシナリオは、リスク因子を有し、ワクチン接種している軽症 COVID-19 患者に対してパキロビッドを使用するかどうかという、実際の臨床現場に即しているものでした。

また、目の前の患者さんへの適応にはエビデンスだけではなく、患者さんの意向と行動、患者さんの病状と周囲を取り巻く環境を踏まえ、医師の臨床経験に基づいてしなやかに行う必要があることが良く分かりました。また、研修医、専攻医の指導には、指導医の臨床経験に基づく判断プロセスをよく説明することが有用であるというご指摘にもとても納得しました。エビデンスを軽視していいということではなく、短時間で良質なエビデンスを把握し、その上で議論することが大切なのかと思いました。

受講後のアンケート（回答者 25 人）で

は、100 点満点での満足度は平均 93.2 点でした。「このセッションであなたに必要な知識は得られましたか？」という質問には、すごくそう思う 64.0%、少しそう思う 32.0%、「このセッションの難易度は，あなたにとって期待通りでしたか？」という質問には、ちょど良かった 76.0%、難しかった 16.0%、簡単だった 8.0%と、概ね良好な結果となりました。自由意見でも「最新の情報をシンプルで難易度が低い方法で得る方法を楽しく分かりやすく教えていただけた。」「EBM についてのお話もですが、イントロの総合診療医や家庭医についてのお話も大変興味深く勉強になりました。」「英語アレルギーを避けて、論文を検索&活用できる手立てが学べてよかったです。」など、皆さんにとって有意義なセッションであったことが伺えました。南郷先生有難うございました。

★　四国ブロック支部　新役員が決定しました

四国ブロック支部長：阿波谷敏英

このたび、2024 年度・2025 年度の代議員選挙が実施され、四国ブロック支部からは、以下の皆さんが選出されました。四国ブロック支部の規約には、代議員が支部役員となると規定されておりますので、この皆さんが支部役員もお勤めいただくということとなります。任期は 2023 年 12 月 5 日から、次期代議員が選出される時（2025 年 11 月末頃）までとなります。

四国ブロック支部代議員（50 音順、下線は新任の方）

阿波谷 敏英	高知大学医学部家庭医療学講座	植本 真由	高松平和病院
遠藤 日登美	三豊総合病院	大倉 佳宏	徳島大学病院
大塚 伸之	西予市立野村病院	大原 昌樹	綾川町国民健康保険陶病院
加藤 正隆	かとうクリニック	川上 和徳	綾川町国民健康保険陶病院
河南 真吾	徳島大学病院	川本 龍一	愛媛大学大学院医学系研究科
北村 聡子	高知大学医学部附属病院	木村 年秀	まんのう町国民健康保険造田歯科診療所
コルビン 真梨子	医療法人社団光樹会　水谷内科クリニック	佐竹 悠良	高知大学医学部部附属病院
佐藤 清人	小豆島中央病院	塩見 勝彦	塩見内科医院
白川 光雄	海陽町宍喰診療所	杉山 圭三	愛媛県立中央病院
高口 浩一	香川県立中央病院	武内 世生	高知大学医学部附属病院
谷　憲治	東洋病院	十枝 めぐみ	綾川町国民健康保険綾上診療所
所谷 美和	特定医療法人長生会大井田病院	中津 守人	三豊総合病院
南木 伸基	高松赤十字病院	西村 真紀	やまと診療所高知
原　穂高	愛媛生協病院	板東　浩	小松島病院/徳島大学
本多 さやか	聖路加国際病院	本田 壮一	美波町国民健康保険美波病院
松原 知康	徳島大学病院	八木 秀介	徳島大学病院
山口 治隆	徳島大学	横井　徹	横井内科医院

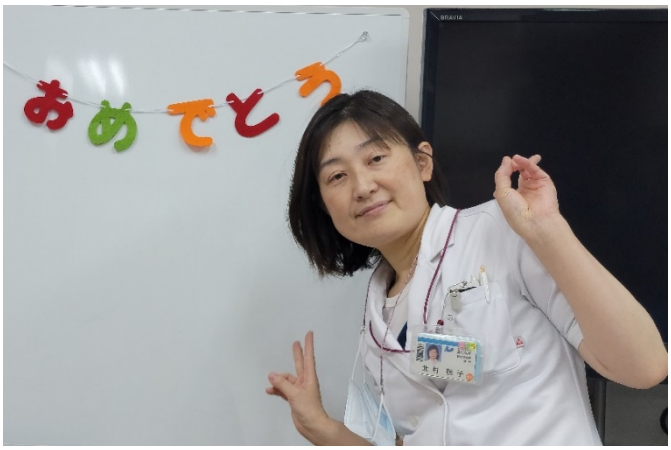
新任の役員のうち、原稿をお寄せいただきました皆さまの自己紹介を掲載させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いします。

遠藤 日登美 先生（三豊総合病院）

自治医大を卒業し、あっという間に23年が過ぎていました。義務年限中は陶病院や綾上診療所で地域医療の基礎を学び、義務年限が明けてからは子育てをしつつ、健診部門と地域医療のお手伝いをしながら現在に至っています。三豊総合病院という予防医療や訪問診療などの地域医療から3次救急まで幅広く診療ができる特殊な病院に勤務しているおかげで、隙間を埋めるような仕事を中心に自分のスキルを繋げてこられたと思っています。今年度から総合診療専門研修プログラムに専攻医の馬越先生が来てくださり、香川県でも総合診療医を育てていく風土を作っていきたいと思い頑張っています。まずは、家庭医療学の知識を広げていきたいので、皆様、ご指導よろしくお願いします。

北村 聡子 先生（高知大学医学部附属病院総合診療部）

高知大学医学部附属病院総合診療部に所属し、外来診療と学生教育に携わっています。ローテート研修の後に循環器内科領域を学んだご縁で、不整脈診療も続けていますが、総合診療医としての知識・技術・臨床経験、いずれもまだまだであり、これから皆さんとの交流の中でもっと勉強していきたいです。ちなみに休日には一般の合唱団に所属して元気に歌っています。そこそこ年齢を重ねて参りましたが、仕事も趣味も、向上心を持って楽しくやっていけるようがんばります。よろしくお願いします。

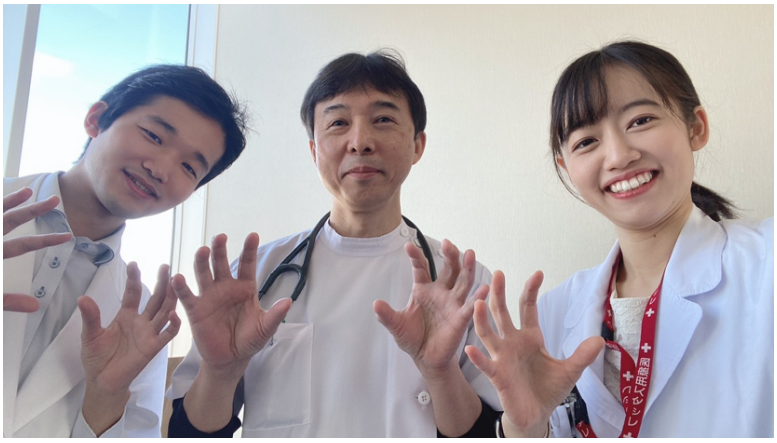


佐竹 悠良 先生（高知大学医学部附属病院腫瘍内科学講座）

今年度より日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部役員となりました高知大学医学部腫瘍内科学講座の佐竹です。“がん”は、今や日本人の二人に一人が生涯のうちに罹患してしまう時代であり、primary care 領域においても重要な疾患と言えます。「腫瘍内科医」はがんに対する“4大治療”である‘手術’、‘放射線’、‘薬物療法’、‘緩和治療’のうち、‘薬物療法’を中心に、それぞれの治療法の特性を理解し、適切なタイミングで最良の選択を行い、各専門科と連携を図る、いわばがん治療における「舵取り役」です。「がん疑い」や「がんマーカーが高い」などの確定診断がついていない場合も含め、腫瘍内科へ紹介いただければ、適切に対応させていただきます。四国ブロック支部の発展に微力ながら貢献できればと思いますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。

南木 伸基 先生（高松赤十字病院）

こんにちは、お疲れさまです。自治医科大学を卒業し早 30 年、ご縁があり高松赤十字病院でお世話になっています。呼吸器内科部長/総合内科部長/卒後臨床研修センター長を拝命しておりまして、“ 啐啄同時 ”これが学修者への指導支援のキーワードと考えています。「鳥の雛が卵から産まれ出ようと殻の中から卵の殻をつついて音をたてた時、それを聞きつけた親鳥がすかさず外からついばんで殻を破る手助けをすること」ですね。また、学修者の向こうには地域住民様がいらっしゃることを恒に意識するよう心がけています。



皆さまと共に我々の日本プライマリ・ケア連合学会が breakthrough できるよう精一杯がんばる所存です。何卒よろしくお願いいたします。

松原 知康 先生（徳島大学病院脳神経内科）

この度、徳島大学に異動して参りました松原知康と申します。JPCA 四国ブロックのお仲間に加えていただけるとのこと大変嬉しく存じます。私は内科全般に加えて、軽症外科診療に興味を持って日々過ごしております。非外科系医師が軽症外科診療を学び始めるためのシミュレーションコース（T&A マイナーエマージェンシーコース）も細々とではありますが継続的に運営しております。もし四国地方で皆で一緒に軽症外科診療を学ぶ場を設ける機会がありましたら用命いただけますと幸いです。どうぞ何卒よろしくお願い申し上げます。

八木 秀介 先生（徳島大学地域・家庭医療学分野/総合診療学分野）

2023 年 12 月から徳島大学の新規講座である地域・家庭医療学分野と徳島県立海部病院に対する徳島県の寄附講座である総合診療医学分野の特任教授を拝命しております。

私は、徳島生まれ、北海道育ち、愛媛大学出身で、“全身を診る“医師を目指して、徳島大学旧第一内科・循環器内科、国立循環器病研究センター、米国 NY 州ロチェスター大学、四国中央病院などで、内科全般、特に循環器内科、老年科を中心に研鑽して参りました。四国でプライマリ・ケアを実践し、活躍できる医師・メディカルスタッフを“教育“の力で少しでも多く増やしたいと思い、日々奮闘中です。今後ともよろしくお願いいたします。

【新しい総合診療専門医のご紹介】

佐藤 真紀 先生（高知県本山町嶺北中央病院）

高知県の本山町立嶺北中央病院に勤務しております、佐藤真紀と申します。2021 年度に家庭医療専門医を、2023 年度に総合診療専門医を取得いたしました。

私は自治医科大学を卒業したことを契機に地域医療の道を歩みはじめました。中山間地域では勤務先が唯一の医療機関であったり、交通事情等から地域外の医療機関を受診することが困難な方も少なくなく、特に地域に出て間もない頃は十分に役目を果たせていないのではないかと不安や焦りを感じていました。少しでもニーズに応えられるようになりたいと研修日を利用して内視鏡や精神科の研修をさせていただいていましたが、へき地での勤務義務を終えた後の自身の進路については決めかねていた折に「先生は何を専門にされるのですか」と患者さんに聞かれたことがありました。答えに窮した私に、「専門は〇〇町です」と自信を持って言えばいいと言ってくださった上司がいました。その時の私はまだ家庭医という概念を知りませんでしたが、その上司をはじめ ACCCC（Access to care、Continuity、Comprehensiveness、Coordination、Context）の理念を実践する先輩医師や地域の事情に精通したコメディカルの方々と一緒に働くうちに、プライマリ・ケアに関わる仕事を続けたいと思うようになりました。医師 5 年目の年に家庭医療専門医研修を開始し、現在に至ります。

急性期を中心に対応する総合病院でとして勤務する機会もありましたが、地域の医療機関へ戻った患者さんのその後がよく気になっていました。在宅医療・入院医療とも行うことができ、より患者さんの生活の場に近い現在の勤務環境が自分には合っていると感じています。長く患者さんやそのご家族と関わりながら気軽によろず相談をしてもらえる存在になるために、省察的実践家であることを忘れずに丁寧な診療を心がけたいと考えております。また私事ですが現在は育児のため時短勤務を行っており、助けていただくことが多い身で恐縮ですが、細く長く仕事を続けることで支えてくださる方々や地域へのご恩返しができればと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

東山 祐士 先生（高知県仁淀川町国保大崎診療所）

今年、総合診療専門医資格を取得しました、東山祐士と申します。

2018 年度に高知家総合診療専門研修プログラムに参加し、へき地勤務との兼ね合いから当初の予定よりも長い期間をかけて研修を終え、今年度に専門医資格を取得いたしました。

総合診療専門医を目指すきっかけは、私にとって消極的な理由でした。へき地医療を担う総合医を育成する大学である自治医科大学を卒業し、地元である高知県で初期臨床研修を開始しました。しかし初期研修終了までに特に専門的な興味を持った診療科はなく、そのまま義務年限に入ることになりました。そんな折、新専門医制度の基本領域としての総合診療科が設立され、へき地勤務中でも取得可能であることからプログラムへ参加したというのが本音です。

しかしプログラムの 5 年間を通じて、総合医として働くことの魅力に気づくようになりました。薬剤や医療処置では解決しない患者

さんの社会的な側面を考慮した全人的な診療や医療資源が限られた僻地での医療・決断等々、総合医としての診療に難しさを感じつつも同時に面白さも感じるようになりました。今ではこの道を選んで本当に良かったと心から思えています。

現在は無床診療所の所長として勤務していますが、研修を通じて得た経験が日々の診療の助けとなっています。外来業務を効率的にこなすだけでなく、患者さんが本当に訴えたいことに耳を傾け、その人に本当に合った治療方針を考えながら診療を行うように心がけています。

今後も現在と同様、僻地での総合医としての活動を続けていく予定です。地域に貢献し、患者さんの健康と幸福に寄り添う医療を提供していきたいと思います。また、医学生や研修医の先生が実習・研修に来てくれており、自らの経験を通じて彼らに総合診療の重要性を理解してもらえるよう尽力し、総合診療の道を選んでくれる若い医師が増えるよう努め、総合診療科を今以上に盛り上げられるよう、がんばっていきたいと思います。

田邊 義貴 先生（高知医療センター総合診療科）

はじめまして。高知医療センター総合診療科で勤務している田邊義貴と申します。この度 2024 年に総合診療専門医を取得することができました。私は 2016 年に高知大学を卒業後に高知医療センターで初期研修を経て、2018 年から高知家総合診療研修プログラムにて専門研修をスタートさせました。高知医療センターと高北国民健康保険病院での研修を終え、今年専門医を取得しました。

私は高知大学に入る前に文系の大学を卒業しており、医師になったのは 31 歳の時でした。父が田舎で開業医をしていたこともあり、漠然と地域医療や総合診療といったものに興味がありました。学生時代と初期研修中に 3 人の子供が生まれたこともあり、後期研修と家庭の両立が出来ることを優先して考えて、高知家総合診療プログラムを選択しました。高知家プログラムの良かった点は様々な医療機関から自分に合ったローテーションを組めることです。私の場合は高知医療センターで初期研修をしていたので、総合診療Ⅱや内科、小児科、救急科を医療センターで研修しました。慣れた環境であり、ストレスなく研修が出来ました。また育児や家族の事情もあり研修期間を 3 年から 4 年に延長いただき、最終年度には総合診療Ⅰとして佐川町の高北国民健康保険病院での研修を行いました。ここでは一般内科外来・病棟管理に加えて訪問診療や介護福祉分野との連携など、プライマリ・ケア領域の勉強をすることが出来ました。現在は高知医療センターでの紹介患者の診察や、救急搬送され入院となった方の病棟管理などをしながら、月に数回はへき地などの診療支援をしており、忙しいながらもとても充実した日々を送っています。月に 1 回支援に行かせてもらっている診療所では「次も先生に診てもらいたい」とわざわざ予約をとってくれる患者さんがいることに感謝をしつつ、いつか地域の診療所で常勤医として働きたいとも考えております。

総合診療専門医としてはまだまだ力足らずではございますが、患者様の今後ともよろしくお願いします。

【連載】プライマリ・ケア認定薬剤師、プライマリ・ケア認定看護師のご紹介

水谷 仁美 さん（医療法人社団 光樹会 水谷内科クリニック）

プライマリ・ケア認定薬剤師の資格を取得して間もないですが、薬剤師として日々どんなことができるかわくわく模索しているところです。今回はこれまでに取り組んできたこと、これから挑戦してみたいことをご紹介できればと思っています。

現在、日本の医療機関で保険診療に使える医療用医薬品は約 13,000 品目あります。この品目数から、科学的根拠のみだけではなく、いかに患者の状況、価値観を理解し、患者個々に最適な薬剤を選択し提案できるかが薬剤師の職能を発揮できる場だと思っています。プライマリ・ケア領域でも同様、性別、年齢、臓器にとらわれることなく幅広い患者の訴えや問題に対応できなければなりません。同じ疾患を持つ患者でも、疾患の状態は個々人で千差万別であり同じ治療方法を使えない場面もあります。

より良い薬剤の提案ができるよう、国際学会に参加し常に知識のアップデートを行うように心がけています。2018 年グラスゴーで開催された FIP World Congress では、イギリスの薬剤師が実際に医療機関でどのように治療提案に係っているか学ぶ機会がありました。その一例として、イギリスでは薬剤師が CRP の検査値に応じ、患者の感染症の重症度を認識し治療内容の選択を行う医療システムが構築されているようです。日本でも、臨床検査値の記載された処方箋が普及されるなかで、改めて医療チームの一員として、薬剤師が薬物療法の安全性と有効性の向上に積極的に関与する姿勢が重要であるかを学び機会となりました。

The University of Arizona 薬学生との交流

2019 年の WONCA Asia Pacific Regional Conference では、日本で使われている医療用医薬品を幅広い患者のニーズに対応するため、日本独自の簡易懸濁法、院内製剤の調製について紹介する機会も得ました。簡易懸濁法、院内製剤の調製の導入により、医療用医薬品の中で制限された投与経路、剤形をさらに拡大することが可能となり、薬剤の選択肢の幅を広げることになります。これらの方法は海外の医療従事者からも良いフィードバックを頂くことができました。

今後、常に学ぶ姿勢を忘れず、得た知識を、生まれ育った大好きな香川の地から世界へ発信できればと思っています。ひとりひとりの患者の声に傾聴し、個人のニーズに応じた最善な薬剤の選択をするお助けができるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

12th International Congress on Obesity 意見交換の場